

風也、説文に糞稻餅也、謂炊米爛乃擣之、不爲粉也、一説に説文字解に、穢穢本字蓋糞糞也と見えて、
 糞食の唐音もをづちいなれば、轉じてもちといふ也ともいへり、又不托を譯す、艾饅、葛饅、蕨饅、牛
 房饅、茄子饅、粟粉饅、柿搗饅、橡實饅等の品類あり、古へ餅に幾枚といへり、靈異記にも、大枚の餅と
 見ゆ、

〔書言字考節用集六〕服食家カチン鎮チン事公事見山崎寶積寺縁起、

〔海人藻芥〕内裏仙洞ニハ、一切ノ食物ニ異名ヲ付テ被召事也、一向不存知者、當坐ニ迷惑スベキ者
 哉、

飯ヲ供御、酒ハ九獻餅ハカチン、略○中 如此異名ヲ被付、近比ハ將軍家ニモ女房達皆異名ヲ申スト
 云々、

〔大上臈御名之事〕女房ことば

一もちい かちん

〔後水尾院當時年中行事正月〕十六日けふより後はあしたの物には、赤のかちんなどを奉る、

廿日、こぶあは、へたゝのかちんにて御祝か、是らも俗にならふ事とみえたり、

〔醒睡笑一〕謂被謂物之由來餅をかちんとは、かちんのでぬぐひにてかみをつ、みゆふたる女房の、
 いつも禁裏へ、もちをうりに参りつけたり、もちうりとあれば、ことばのさまいやし、いつものか
 ちんがまゐりたるなど沙汰あればよろし、

〔貞丈雜記六〕飲食一餅の事を、女の詞にかちんと云はかちいひ也、かちは、搗の字也、うつともつくと
 もよむ字なり、春杵にて物をつく事をかつと云也、米麥などをつくを、米かつ麥かつなど、云也、
 いゐるとは飯也、こはいひをつきて餅にする故、かちいゐると云也、かちいゐるを略してかちいと云、か
 ちいを轉じてかちんと云也、